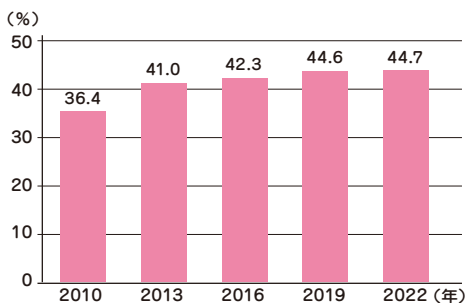


日本の受診率は 47.4%、受診率の向上が急務

2022年国民生活基礎調査によると、視触診、マンモグラフィ検診、超音波（エコー）検診を含めた日本女性の乳がん検診の過去2年間の受診率は47.4%です。また、他国との比較では、オランダ 77.1%、アメリカ 76.5%、フランス70.0%、ドイツ65.7%、韓国65.9%であるのに対し（OECDヘルスデータ）、日本の乳がん検診受診率は44.7%と非常に低い水準であると報告されており、近年はグラフ5のように頭打ちです。国民の乳がん死亡を低減させるために、受診率は60～70%が必要であるとの研究もありますので、受診率向上に向けた活動は大変重要です。

グラフ5 乳がん検診受診率の推移



出典：国民生活基礎調査（厚生労働省）

column

組織型検診

実は日本人の正確ながん検診受診率は不明です。国民生活基礎調査は住民に対するアンケートなので、医療機関での経過観察や診察のための検査が数に含まれている可能性があります。国は対策型検診の受診者は把握していますが、任意型検診の受診者は把握できません。

一方、欧米や韓国では組織型検診が行われています。組織型検診では、がん検診の対象となる人たち全員の名簿が作成されます。それに基づき検診未受診者や精密検査未受診者への受診勧奨が行われ、検診結果と医療機関の診療情報、がん登録や死亡診断書との照合により、がん検診の推進や死亡率減少効果の評価が行われています。